

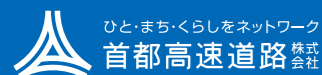
横浜の道路ネットワークは これからも進化します



横浜環状北西線は東名高速道路の横浜青葉 IC・JCT(仮称)と **K7** 横浜北線・第三京浜の横浜港北 JCT を結ぶ自動車専用道路で、共同事業者である横浜市と連携して、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指しています。日本の大動脈の東名高速道路と横浜港が直結し、横浜の道路ネットワークは、これからも進化し続けます。

お問い合わせ

首都高速道路に関するお問い合わせは



神奈川建設局 調査・環境課
TEL 070-2153-1759 FAX 045-439-0773
受付時間：平日 9:00~17:00
〒221-0013 神奈川県横浜市神奈川区新子安 1-2-4
オルトヨコハマ・ビジネスセンター3階

街路に関するお問い合わせは



道路局 横浜環状道路調整課
TEL 045-671-2780 FAX 045-651-2325
受付時間：平日 9:00~17:00
〒231-0017 神奈川県横浜市中区港町 1-1

きたせん



<http://www.shutoko.jp/ss/kitasen/>



横浜北線

(**K1** 横羽線 ~ 第三京浜)

2017.3.18 SAT
16:00 開通!

K7 横浜北線 (K1 横羽線～第三京浜) を ご紹介いたします

K7 横浜北線 (K1 横羽線～第三京浜) の出入口の周辺には、出入口をスムーズにご利用いただけるよう「川向線」「長島大竹線」「大田神奈川線」「岸谷生麦線」が整備されます。

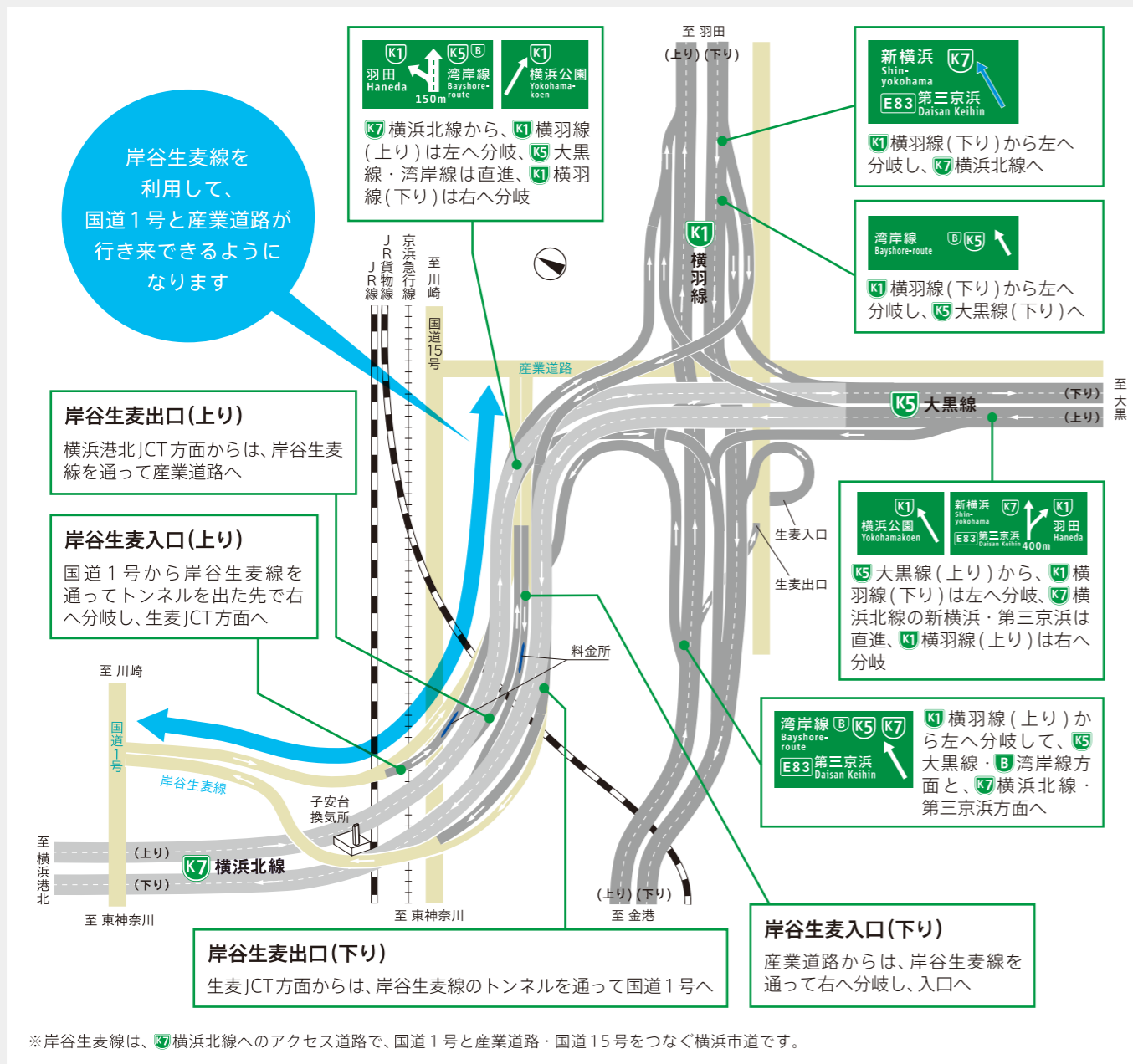


出入口とジャンクション(JCT)、 料金をご案内します

生麦JCT付近に設置される岸谷生麦出入口のご利用方法と
K7 横浜北線の主な料金をご案内します。

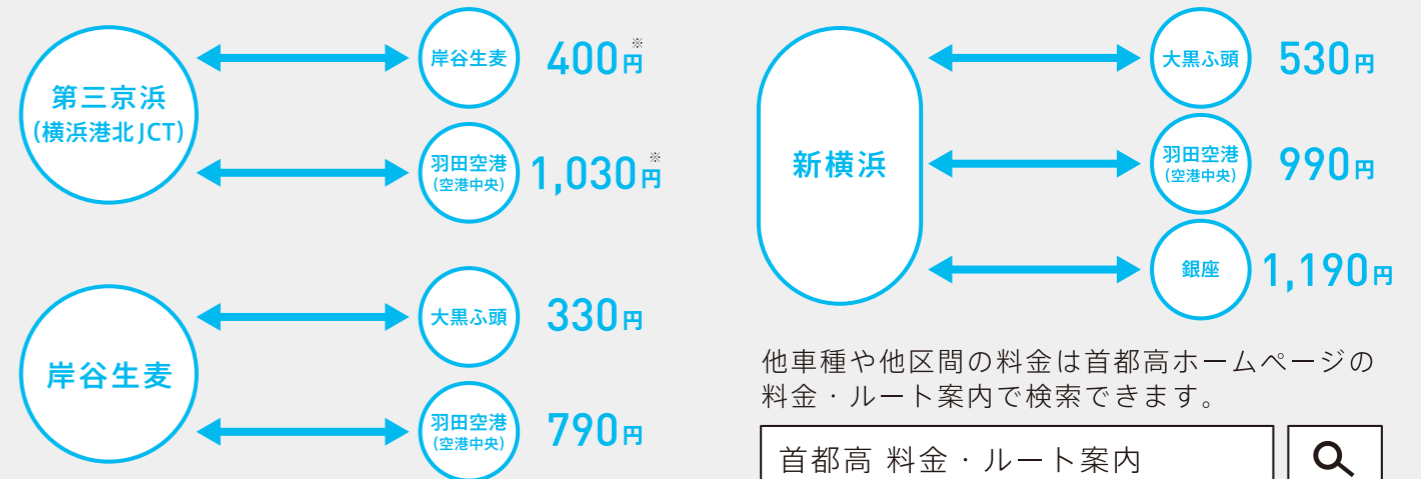
岸谷生麦出入口・生麦JCT

岸谷生麦出入口は、国道1号からK1横羽線・K5大黒線方面への出入口と、産業道路から新横浜・第三京浜方面への出入口に分かれています。生麦JCTは、K7横浜北線・K1横羽線(上り・下り)・K5大黒線の4方向へ行き来できるようになります。



K7 横浜北線の主な利用料金

【ETC 普通車】



他車種や他区間の料金は首都高ホームページの
料金・ルート案内で検索できます。

首都高 料金・ルート案内

●ETC 大型車・特大車は湾岸線のご利用が
お得です。(環境ロードプライシング割引)

横浜港北JCT*	新横浜	岸谷生麦	大黒ふ頭	川崎浮島JCT		空港中央
				本牧ふ頭	300	780
				300	550	680
		330	430	660	790	
	360	530	630	850	990	
300	400	570	670	890	1,030	

【現金 普通車】

現金でご利用のお客様は、1,300円で首都高全線をご利用いただけます。
ただし、下記の入口をご利用される場合の料金は次のとおりです。

- 新横浜入口(下り、横浜港北JCT方面) 300円
- 岸谷生麦入口(下り、横浜港北JCT方面) 400円

- 横浜港北JCTはK7横浜北線と第三京浜が接続するJCTです。当該JCTには首都高の出入口がないため、記載の料金に加え、第三京浜の利用料金が必要です。
- 馬場出入口は、2017年3月18日には開通しません。2019年度の開通を目指し、引き続き、工事を進めてまいります。

暮らしに役立つ 高速道路ネットワーク

K7横浜北線 (K1横羽線～第三京浜)が開通することで、横浜市北部は横浜港、羽田空港と近づきます。アクセス向上により、物流や空港連絡バスの利便性などが高まります。

横浜港へのアクセス向上

横浜市北部と横浜港がつながります

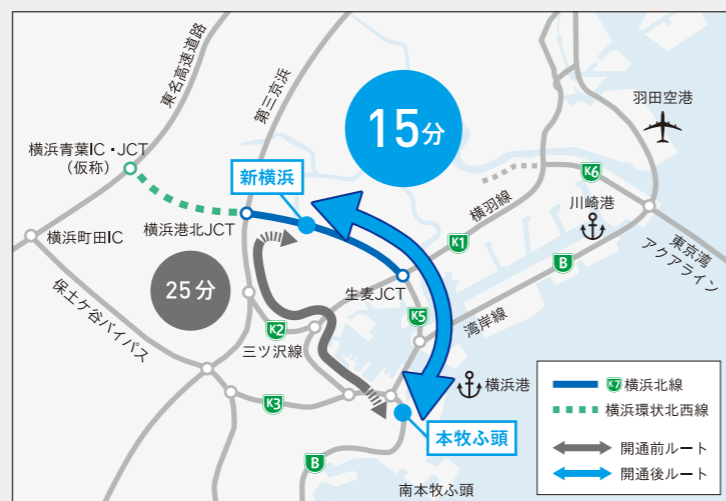
新横浜を中心とする横浜市北部と横浜港が直結することで、横浜港への所要時間の短縮や、定時性の確保が期待されます。

◎ 新横浜出入口から
本牧ふ頭出入口までの所要時間

10分短縮



※開通前は港北IC、新山下出入口を利用



アクセス向上により

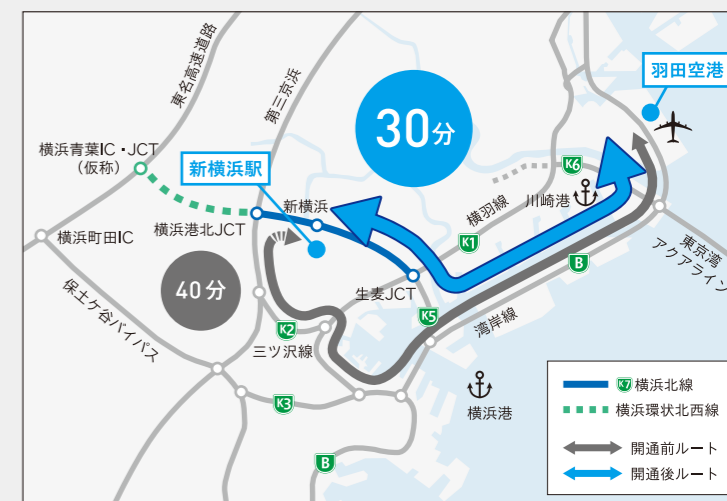
羽田空港へのアクセス向上

横浜市北部と羽田空港がつながります

横浜市北部から羽田空港方面へのアクセスが向上し、羽田空港方面への利便性が高まります。

◎ 新横浜駅から
空港中央出入口までの所要時間

10分短縮



アクセス向上により

物流の効率化

臨海部と横浜市北部との連携が強化されます

K1横羽線、B湾岸線と第三京浜の連携が強化され、広域的な交通利便性が向上し、企業活動や物流効率化の支援、交流の拡大に貢献します。

工場関係者からの声

・横浜港からのルートが遠回りしなくてすむので所要時間短縮に大きく期待しています。

物流事業者からの声

・横浜港へのアクセスが向上することで、取引先企業を誘致する際のPRに大いにつながります。



空港連絡バスの利便性向上

空港連絡バスの所要時間の短縮が見込まれます

たまプラザ駅・センター北駅・センター南駅・新横浜駅と羽田空港を結ぶ空港連絡バスの所要時間の短縮が見込まれます。

◎ 空港連絡バス運行ルート



安心とにぎわいのために

K7 横浜北線 (K1 横羽線～第三京浜) が開通することで、道路ネットワークの信頼性が高まるほか、沿線地域の暮らしに様々な開通効果をもたらします。

ネットワーク強化・信頼性の向上

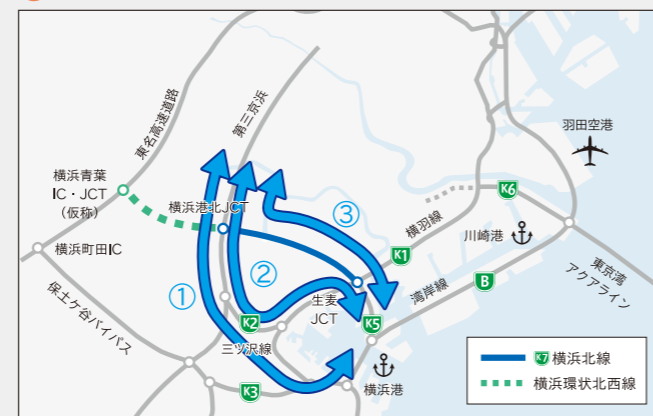
多様な経路選択ができるようになります

例えば、突発的な事故や災害によって通行止などになった場合、極端な遠回りをせずにも多様な経路選択が可能になり、所要時間のロスを減らせます。

◎ 現在は1ルート



◎ 開通後は3ルートに



ネットワーク強化により

防災力強化・医療支援の充実

安全・安心な暮らしに貢献します

首都高は、災害時に発生する緊急輸送を円滑に行うための「緊急輸送道路」に指定されており、大規模災害時における迅速かつ効率的な応急対策活動の支援が可能となります。また、災害時の医療搬送に役立つなど防災ネットワークが強化されます。

消防署からの声



- ・高速道路が整備されると搬送中の揺れや振動が抑えられるため、患者の負担が軽減されます。
- ・大震災の際の大動脈となる新たな経路が確保できます。



地域活性化・観光振興

地域のにぎわいを創出します

新横浜都心などの内陸部との連絡が強化され、沿線に立地する商業施設やイベント施設へのアクセス性が向上することで地域活性化を支援します。また、アクセス性が向上することで、東京・横浜・千葉のレジャー施設等が身近になります。

旅行代理店からの声



- ・沿線地域(新横浜、市が尾、あざみ野など)から出発して、アクアラインを経由し房総方面に向かうツアーなどへの利用に期待しています。

商業施設からの声



- ・出入口が近くなることで、お客様の利便性が良くなると思います。



生活環境改善

沿線地域の安全や環境の改善に貢献します

生活道路への通過交通や迂回交通が減少し、住宅地での安全性向上が期待されます。また、生麦JCTの全方向サービス化により、さらに大型車のB湾岸線誘導も可能となります。

工場関係者からの声



- ・K7 横浜北線 (K1 横羽線～第三京浜) ができたら首都高の利用機会が増加すると思います。

地域住民からの声



- ・住宅地を通過する大型車が減り、安全性が向上することを期待しています。

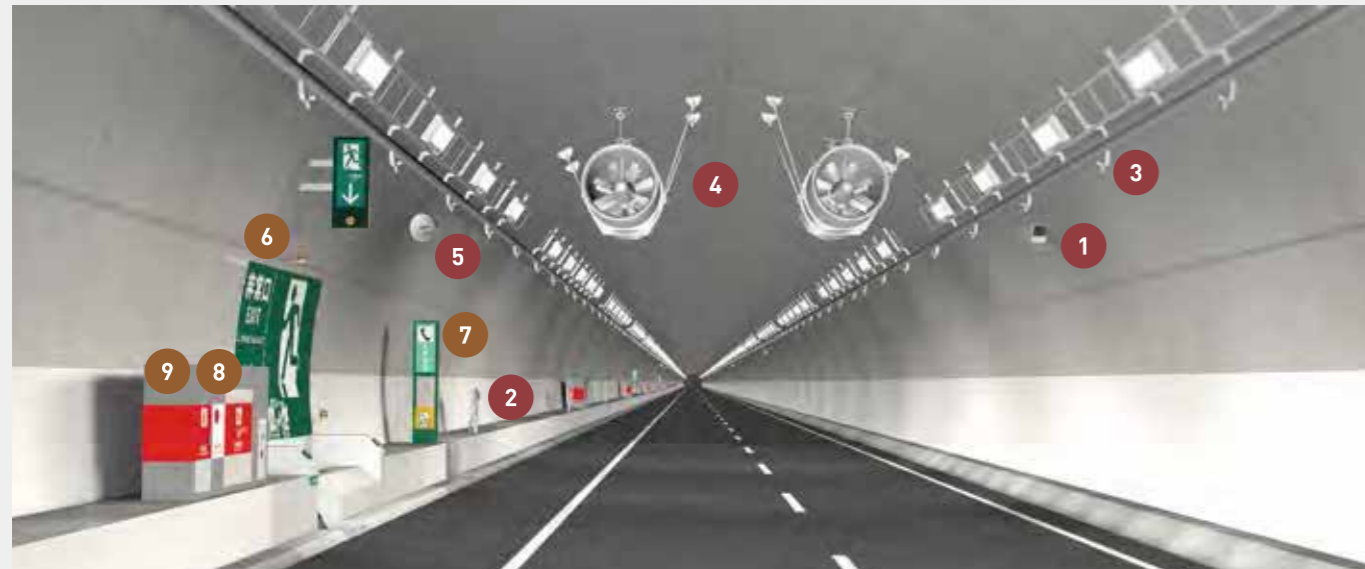
●首都高の環境ロードプライシング割引についてはコチラ

首都高 環境割引



事故や火災から お客様を守るために

トンネル内ではお客様の安全を確保するための設備をはじめ、事故や火災など万が一の場合に備えて最新の防災設備を採用しています。



トンネル内で火災に遭遇したら…

1 速やかに停車

- 安全を確認して、速やかに停車してください(非常口の前には停車しないでください)。
- 停車するときは、左側か右側に寄せて、緊急車両が通行できるように中央部を空けてください。
- 車を停車させたら、エンジンは止め、キーは車内に残して速やかに近くの非常口から避難してください。

2 非常口へ避難

非常口へは誘導表示板と回転灯(非常口強調灯)を目印に

誘導表示板

回転灯(非常口強調灯)

非常口表示灯

※下図参照

3 地上へ



◎ すべり台を使った避難の方法 ※大部分の非常口は、すべり台を使用して道路下の安全空間へ避難します。

「非常口を開けるボタン」で非常口扉を開ける

1

2

1 非常口に設置された緑のボタンを押します。

2 ボタンを押すと、非常口の跳ね上げ扉が開放します。

すべり台で道路下の避難通路に移動

3

4

3 跳ね上げ扉が完全に開放されているのを確認し、すべり台で道路下安全空間へ滑り降ります。

介助を必要とされる方がいた場合は、ご協力をお願いします。

4 避難通路は安全空間ですので、サインに従ってあわてずに避難してください。

道路下の避難通路をサインに従って避難

5

5 すべり台を降りた後は、避難通路内のサインに従って地上出口まで避難してください。

もしも事故や火災が起きたら

トンネル内の設備と対策

! 異常を検知

1 **テレビカメラ**
約100m間隔で死角なく設置。

2 **自動火災検知器**
約25m間隔で設置。

! 延焼・拡大を防ぐ

3 **水噴霧設備**
施設管制室から遠隔操作し、約50mの範囲に霧状の水を放水。

4 **ジェットファン**
火災発生時、煙が避難の妨げにならないよう、車道部の空気の流れを調整。本トンネルに43基設置しています。

情報伝達と避難誘導

5 **拡声放送スピーカーラジオ再放送設備**
緊急放送でトンネル内へ情報を伝達。

交通管制室 施設管制室

さまざまな情報をもとに事故、火災などの状況を瞬時に判断し、警察・消防等への要請、パトロールカーの出動、関係機関への連絡などを24時間体制で行います。また、各防災設備をコントロールして被害を最小限に抑えながら、安全に避難できるよう、お客様を誘導します。

パトロールカー
首都高を24時間体制で定期的に巡回し、日々交通安全の確保に努めています。トンネル内での火災発生時などに現場に向かい、交通規制などの初期活動を行います。

お客様の行動

! 速やかな通報と避難

6 **非常口** 約250m間隔で設置。

7 **非常電話** 約100m間隔で設置。

8 **押ボタン式通報装置**
約50m間隔で設置。

携帯電話
#9910で携帯電話での通報可能。

初期消火

9 **消火器と泡消火栓**
約50m間隔で設置。

※初期消火は安全を確認の上でお願いします。
※泡消火栓は、ノズルを取り出して、レバーを引くと泡が出ます。
※使用方法は本体上に記載しています。